中山間地域の地域特性を生かしたアドベンチャーツーリズムのカリキュラム開発

浜松学院大学　現在コミュニケーション学部
指導教員：教授　津村公博、田島喜代美
参加学生：増野皓太、國持 里帆、山本 逸斗、岡田 桃奈、江部 舞、岡崎 諒、鈴木 翔太、築山美奈実、宮城チエミ、古川 竣大、吉山 昂杜

１　要約

浜松市天竜区春野町勝坂地区の調査では、浜松市指定無形民俗文化財「勝坂神楽」が、近年の地域住民の減少により保存維持が困難な状況となり、喫緊の課題であることが明らかとなった。本年はアドベンチャーツーリズムの３つの要素の内、「アクティビティ」、「文化体験」の２つの要素を強化することで、文化財による地域の活性化を目的としたアドベンチャーツーリズムのカリキュラム開発を行った。

２　研究の目的

申請当初の研究目的は、地域住民と連携し「アドベンチャーツーリズム」を実施し、地域活性化の視点から検証することである。しかし、「勝坂神楽」の２年連続の中止となったことで、地域住民への参与観察を通して、祭りに携わる地域住民の発言を収集し、地域の伝統芸能の継承についての今後の可能性を考察する。また、地域資源の保護と活用の特性を生かしたツーリズムコンテンツを検証する。

３　研究の内容

	伝統芸能ツアー	日時	場所	内容
1	勝坂神楽体験教室 参加者：7 名	10 月 23 日	勝坂神楽伝承館	小中高校の児童・生徒を対象に地域の伝統芸能に現状を学び、勝坂神楽を体験する。 1. 坂神楽について 2. 幣づくり 3. 大学生による　道中舞練習①、道中舞練習② 4. 保存会による　オンラインアドバイス 5. グループディスカッション「伝統芸能の継承の課題と私たちができること」
2	伝統芸能継承スタディツアー参加者：24 名 ツアー　17 名 体験教室 7 名	10 月 24 日	浜松子ども館	地域の伝統芸能を練習した小中高校の児童・生徒が、伝統芸能を一般の参加者に紹介する。 1. 勝坂や勝坂神楽についての紹介 2. 勝坂神楽の神事の中継、中高生による舞の披露 3. 春野町産物の紹介動画と体験講座 4. 参加者と学生によるディスカッション 「勝坂神楽を存続させるためには、若者は何したらよいのだろうか https://wgdresilience.peatix.com/view
3	SDGs 体験型プログラム 参加者：16 名	12 月 28 日	浜松子ども館	1. SDGs クイズ SDGs、伝統芸能について、○×クイズの実施 2. SDGs 絵本 オリジナルデジタル絵本を使用し、浜松市の伝統芸能の課題について学ぶ。 3. 勝坂神楽体験教室 勝坂神楽の笛や舞披露し、参加児童は、「幣（ぬさ）」を手に大学生の演奏で舞を体験する。 4. ワークショップ 参加した児童ひとりひとりが、浜松市の伝統芸能の未来のために自分たちができる事を絵に描いて表現する。 https://kodomokan.entetsuassist-dms.com/event/detail/911
4	川名ひよんどり 2022 伝統文化の未来ー遠くからでも、この声は届く！小学生と大学生の挑戦ー	1 月 4 日	川名	川名ひよんどりの準備段階からヒドリ、舞、お囃子まで 10 時間に渡り、「旧川名小学校」「福満寺薬師堂」の２か所にスタジオを設置し、ライブ配信を実施する。 https://kawanahiyonndori2022wataboushigranddesign.peatix.com/view チケット参加：10 名 YouTube 配信：924 回再生（1/21 現在）

４　研究の成果

当初の計画：本年度は、新たなツーリズムの方策とし観光庁の「アドベンチャーツーリズム」をコンセプトに、浜松市内の都市部に在住する家族を対象として、自然の豊かさの体験及び地域の伝統文化の体験の２つを柱としたツアーを企画した。「アドベンチャーツーリズム」による交流人口の変化と勝坂の住民が関わる着地型ツアーの成果を検証することを研究の目的としていた。

実際の内容　B　理由

「アドベンチャーツーリズム」の実施を勝坂地区住民と相談している際に、「勝坂神楽」の２年連続の中止の報告を受けた。さらに、今後の勝坂神楽の継続について、新型コロナウイルスの蔓延とは関係なく困難に陥っていると告げられた。勝坂神楽保存会の中心メンバーの複数が高齢化により体力的に勝坂神楽の参加が困難である。また、お囃子のメンバーの一人が高齢化によりひとり暮らしの生活が不安になり、親戚を頼って集落から離れてしまった。このような話を聞く中で、「アドベンチャーツーリズム」の３つの要素のうち、自然の豊かさの体験を中止し、地域の伝統文化の体験に特化したツーリズムを実施することにした。

4.1　実績・成果と課題

1	勝坂神楽体験教室	定員充足　浜松市民協働センターのボランティア・クエストを活用し募集し、定員充足した。参加者人数10名（定員10名） ※うち新型コロナウィスル不安のため3名欠席
2	伝統芸能継承スタディツアー	定員充足　PEATIXを活用して募集　参加者人数17名（定員15名）
3	SDGs体験型プログラム	定員充足　参加人数：16名（定員15名）
4	川名ひよんどり2022伝統文化の未来－遠くからでも、この声は届く！小学生と大学生の挑戦－	PEATIXを活用し10名定員で募集を実施したが、すぐに満席となり直接の視聴もあわせて当日多くの人に、ライブ配信を実施できた。YouTubeライブ配信：　2022年1月21日時現在924回再生

4.2　参与観察

参与観察は、特定の社会文化集団を構成する人々に関する、記述的な研究(エスノグラフィー)の研究手法である。

勝坂神楽

	発言	発言者	日時	状況
1	勝坂から神楽がなくなれば、勝坂ではなくなる。	勝坂神楽保存会会長	6月26日	自宅敷地内
2	7人しかいない、保存会は。大石さんも山を下りて、もう祭りには出られないかもしれない。	勝坂神楽保存会会長	9月21日	勝坂神楽茶屋内
3	2年連続で中止は、厳しい。勝坂神楽の練習もそうだけど、勝坂神楽の準備や段取りも忘れてしまう。	勝坂神楽保存会会長	10月10日	勝坂神楽茶屋内
4	勝坂神楽をさらに開放していくために、女子の舞について、今神様にお伺いしています。御許しが出れば、今年から実施したい。	勝坂神楽保存会会長	10月10日	勝坂神楽茶屋内
5	大学生が頑張ってくれてうれしい。よく、練習してきたね。これでまた、コロナがなくなれば、祭りができるようになるね。	勝坂神楽保存会お囃子担当	10月10日	気田の施設
6	今年も配信して頂きありがたい。祭礼だけだが、今の苦しい状況を多くの人に知って欲しい。	勝坂神楽保存会お囃子担当	10月24日	勝坂神楽祭礼中での発言

川名のひよんどり

	発言	発言者	日時	状況
1	(昨年は、ひよんどりが実施できず)非常に残念でした。それでも、こちらに禰宜様がいらっしゃりますが、神事は滞りなく行えましたので、残念で寂しかったなと、そういう気持ちではおりました。でも楽でしたよ。	川名ひよんどり保存会会長	12月19日	川名ひよんどり稽古中での発言
2	小学生、皆様方のような大学の方、私ども、保存会の会員の方、それぞれに、8日間の練習日を作りまして(1回につき)練習をずうっと2時間以上やってきたのですが、本番に向けて、よし、これで成功だなあと、皆さん、良くついてきてくれて、真面目に練習してきてありがたいと思っています。もちろん、本番は成功に導きたいと考えています。	川名ひよんどり保存会会長	12月19日	川名ひよんどり稽古中での発言
3	(地域の)若者が残念なことに、去年、その前からずうっと募集をかけていて、若蓮に入って頂きたいとお話をしているのですが、特に大学生の参加はありがたい。(地域の)若者が、新しく保存会に入って頂きたいとお話をしているのですが、もう(若蓮)定年を過ぎたという若者が二人役員としてお世話をしていますが、是非とも、ひよんどり、お祭りを担ってもらう行事もございますが、できる限りはお付き合い願いたいと思っています。色々な形でお話しして、(地域）の若者が、(ひよんどりの参加を)やりやすい、過ごしやすい環境を作っていきたい。	川名ひよんどり保存会会長	12月19日	川名ひよんどり稽古中での発言

4	今までもずうっと(大学生には)期待はしていましたが、先ほども言いましたが、(地域には)若者がいませんので、うちはなんと言っても皆さんにお願いしている、火を取るという火どり場面ですが、その火どりのメインの若者が少ないので、大学生の方々にご参加を頂くことは非常にありがたく思っています。ですからこれからもそこを中心に、「舞」もそうですけれども、是非ともご協力頂きたい。	川名ひよんどり保存会会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古中での発言
5	(川名のひよんどりは)国指定無形文化民俗財ですから、浜松市には４つ（国指定無形文化民俗財）がありますが、その中の一つですが、伝統的に 500 年、600 年続いてきたというその重みを皆さんに是非、知って頂きたいと思っています。これからも配信だけではなく、現地で本物を見て頂きたいとも思います。	川名ひよんどり保存会会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古中での発言

1	昨年神事は行いまして、我々大禰宜５人ですが、準備は同じように行なったもんですから、去年はシシウチ神事を午前にやって、11 時にやって、それからそのまま御堂に行って祭りをしようと、今までより時間を早くしたもんですから、準備が当日ではとても間に合わなかったですから、暮れの 30 日、御堂の横の伊豆神社というのがあるのですが、そこの正月支度をする時に、それを終わってから大禰宜５人小禰宜５人で準備をしました。ですから、いつもよりかは逆に大変だったかなというふうに思います。ただ終わったのがお昼すぎに終わったものですから、その辺はまだ、日も明るくて楽でした。	川名ひよんどり大祢宜 川名地区自治会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古での発言
2	今回、やろうというふうにしたのですが、小学生の子どもたちも入ってもらわないとちょっと舞の方が全部出来ないかな。例年そうなのですが、その辺小学生の親御さん、あと、小学生の校長先生、どういう風に思っているか、コロナの関係で、親御さんは参加に協力してもらって、学校の方も校長先生を初め、地域の方もそうですし、コロナの緊急事態宣言も解除され、いいのではないですか、と合意的な協力を得たものですから、進んできましたが、１番私としては心配でした。何かあったら大変かなと思いました。	川名ひよんどり大祢宜 川名地区自治会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古での発言
3	会長もおっしゃっていたのですが、若蓮という組織があるのですが、いま１名だけです。あと、OB が 30 歳超えた人が 56 名協力してもらっているものですから、その下で、25 歳を頭に 18、19 くらいが 4～5 人いるのですが、今年の８月位から個別になんとかお願いをしていて、お願いのお手紙を書いたりして、昨日もお手紙を暮れ前に書いて、ちょっと見るだけでもいいから協力してもらいたいという気持ちでいます。	川名ひよんどり大祢宜 川名地区自治会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古での発言
4	大変ありがたいと思っています。大学生の方が川名ひよんどりに参加してくれなかった（ならば）途方もなかった。それこそ川に入るのも止めなきゃいけなかった中、なんとか舞の数も減らさなければできなかったと思います。これからも同じようにずっとずっと協力をして行ってもらいたいと思います。それがこちらからのお願いです。	川名ひよんどり大祢宜 川名地区自治会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古での発言
5	まだコロナ禍ですのでこれが終わったら１度川名の方にも足をはこんで来てください。我々の若者が準備している所を是非見てください。生のモノを見て欲しいです。	川名ひよんどり大祢宜 川名地区自治会長	12 月 19 日	川名ひよんどり稽古中での発言

その他、他のひよんどり保存会メンバー、舞に参加した小学生等の発言は本報告書に枚数制限があり割愛するが、論文にて上梓する予定である。調査は、2021 年 11 月 20 日～12 月 19 日で計５回実施した。

4.3　分析

勝坂神楽保存会は、新型コロナウイルスの蔓延により２年間に渡る中止について、勝坂神楽保の存続に危機感を抱いている。勝坂神楽保存会は、これまで勝坂神楽の門外不出は既に廃止し、お囃子の女人禁制も廃止した。さらに、今年は、勝坂神楽の中心である男子が女装して舞う３種類の舞に関して女人禁制を廃止するか検討してきた。舞の女人禁制を廃止する直前で、新型コロナウイルスにより勝坂神楽自体が中止になり、女人禁制の廃止は実現できなかった。

川名のひよんどりも、過疎化により近い将来、継承できなくなると懸念している発言が多い。特に若蓮には一人しか所属しておらず、若者の地域へのつなぎ止めに必死である。川名ひよんどりも、勝坂神楽保存会同様に、その存続をかけて多様な働きかけをしている。その中で、大学生の地域の伝統芸能の継承の期待に関する発言は多い。

今年は、双方の祭りや祭礼にライブ配信を実施し、双方の保存会から全面的な協力を得たが、それも伝統芸能の継承の危機感の表れであろう。祭りは日常の生活とは異なる非日常性を創出するが、地域のなかの人間関係を強化する機能であること、地域の連帯感を熟成し、地域の結びつきをより深めていることを確認できた。

今後の改善点や対策

本年度の「勝坂神楽及」及び「川名のひよんどり」の祭礼及び祭りのオンライン配信については、双方の保存会で正式に決まるまでに時間を要した。特に、「川名のひよんどり」は、ヒドリ、舞、お囃子にも大学生が参加したことから、稽古と配信の準備が重なり、多くの時間を費やすことになった。来年度は、既に「勝坂神楽及」及び「川名のひよんどり」の双方の保存会より、オンライン配信についての依頼を既に受けているため、配信の内容、方法等に関して相談しながら早い段階から着手できると考えられる。

５　地域への提言

過疎化する地域では元々の共同体だけで維持することが困難な地域伝統が多く存在している。担い手不足に対する解決策に積極的に取り組まず、古文書に記載される旧態依然の形態(例えば、門外不出、女人禁制等)に固執すれば、存亡の危機に陥る伝統芸能も少なくない。一方、地域に根付いた伝統芸能や祭りに興味を持つ地域外の人間が増えている。伝統芸能及び祭りを地域の観光資源としての価値を高めることで、伝統芸能を維持して、地域の存続につなげようとする方向性は間違っていない。そのため、地域に伝わる伝統芸能や祭りの維持は対象地域のみの問題ではなく、地域全体で取り組んでいくべきである。一方、伝統芸能や祭りに付随する独特の因習や文化、宗教的儀式などを切り離して、観光化する事例もある。本研究では、むしろ地域に伝わる因習や文化、宗教的儀式に焦点を当てたツアーを実施した。伝統芸能を取り巻く環境は、今は過渡期であり、解決策は必ず見つかるはずである。地域における生活が変われば、祭礼や祭りの方法自体も変わるのは当然である。

６　地域からの評価

勝坂神楽保存会(鈴木康夫会長)、川名ひよんどり保存会(前嶋功会長)から、伝統芸能の継承活動と伝統芸能の広報活動に対して大きな評価を得ることができた。年に一度の祭りや祭礼における非日常性を部分的に切り取るのでなく、一年を通して地域に入り地域住民の生活を通して、地域の伝統芸能を理解しようとする学生の姿勢が評価されたと考えている。

参考資料

(1)　「勝坂神楽体験教室」

(2)「伝統芸能継承スタディツアー」

(3)　「SDGs 体験型プログラム」

(4)「ライブツアー　川名のひよんどり祭礼、神事のライブ配信」